

# 外形図

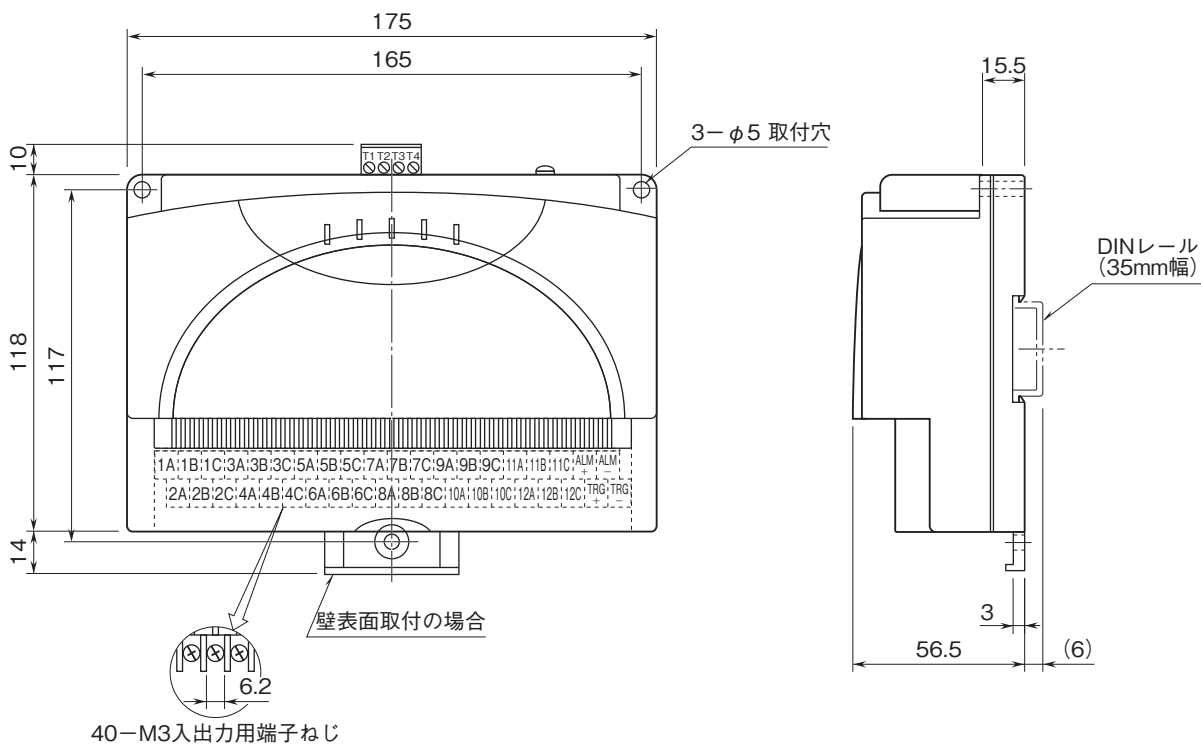
## RZUSシリーズ

### PCLレコーダ

(チャンネル間絶縁、12点ユニバーサルアナログ入力、  
バスパワーUSB)

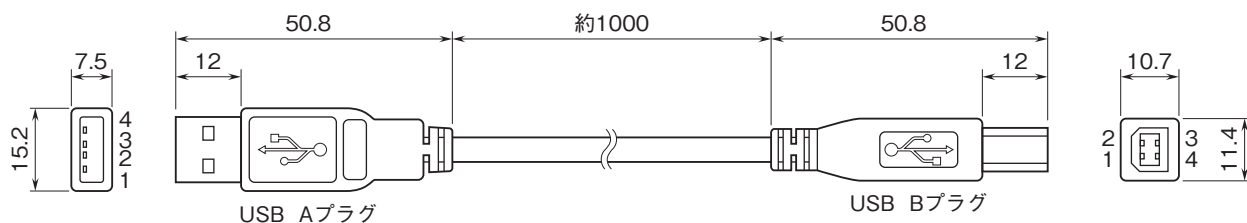
#### 特記事項

#### 外形寸法図(単位:mm)・端子番号図



注) 水平でなく垂直のDINレールに取付ける場合、重力による滑り落ち防止のために、オムロン製 エンドプレート (形式: PFP-M)、  
IDEC製 止め金具 (形式: BNL6) などの固定金具のご使用をおすすめします。

#### ■USBケーブル



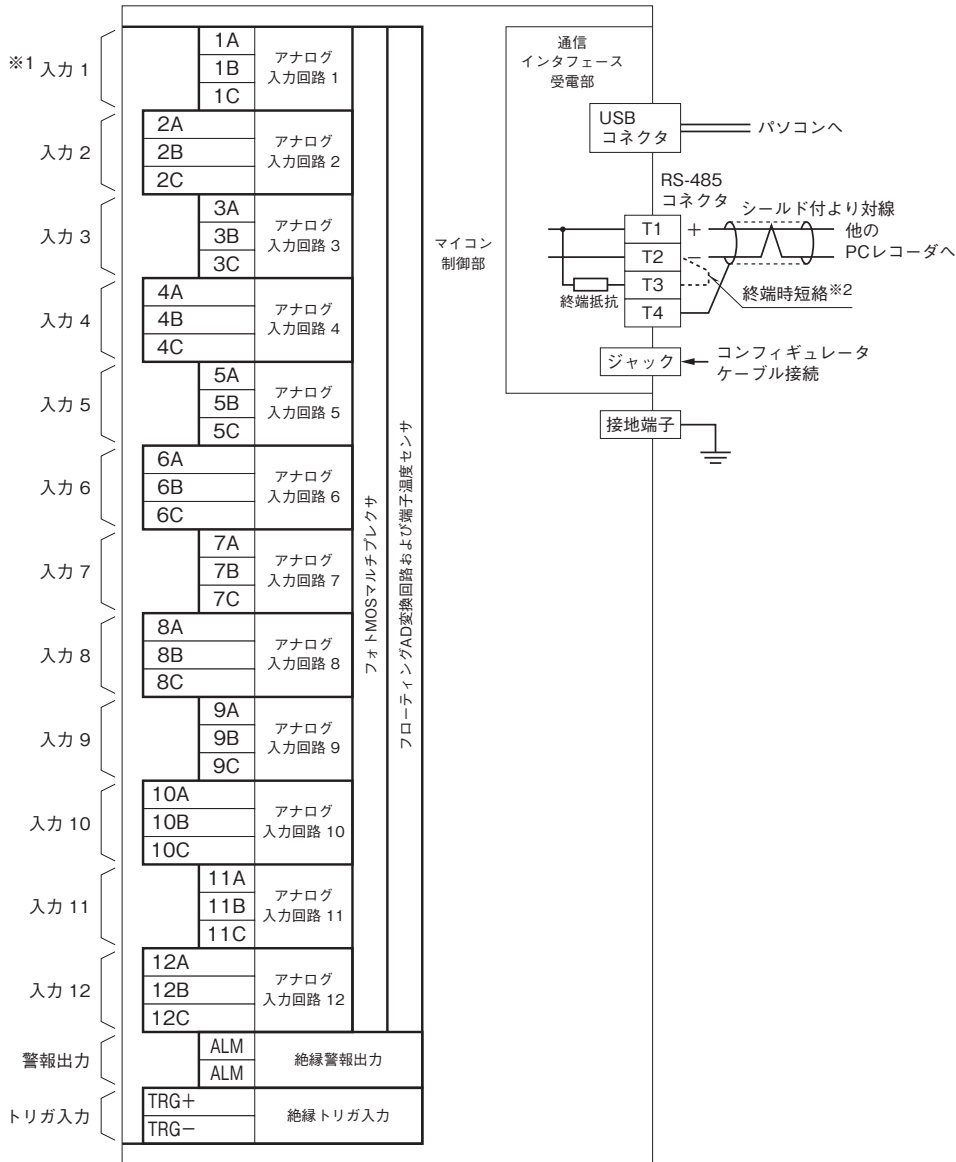
## ■ USB インタフェース



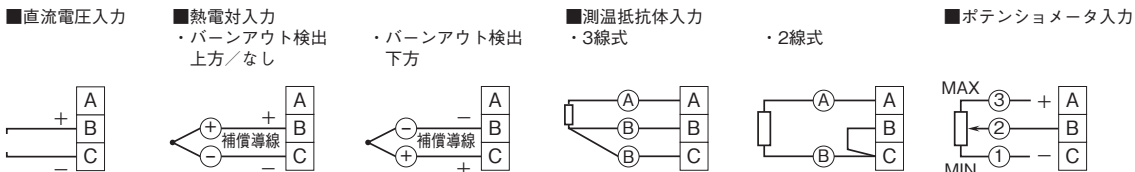
略号	ピン番号	機能
V <sub>BUS</sub>	1	USB バスパワー
D <sub>-</sub>	2	差動信号線
D <sub>+</sub>	3	差動信号線
GND	4	シールド

# 外形図

## 端子接続図



※1、入力部接続方法



※2、より対線の伝送ラインが終端の場合は(=渡り配線がない場合)、端子T2-T3間を付属のショートチップ(または配線)で短絡して下さい。ユニットが伝送ラインの途中に配線されているときは、端子T2-T3間のショートチップをはずして下さい。

- 注1) 入出力端子・RS-485コネクタからのノイズによる測定値のばらつき、誤動作、故障、感電防止のために、RZUS-U9の接地端子を周辺の最も安定したアースに接続して使用されることをおすすめします。パソコンに接地端子がある場合は、同じ箇所に接地されることをおすすめします。
- 注2) 入出力信号にはシールド付より対線を使用するなど、ノイズ混入を極力小さくして下さい。
- 注3) ノイズによるトラブル防止のため、信号線シールドは周辺の最も安定したアースに接地して下さい。
- 注4) USBケーブルおよびRS-485ケーブルは、ノイズ源となり得るフィールド配線や電源配線から極力隔離して下さい。パソコンによってはUSBケーブルからのノイズでハングアップしやすいものもあります。
- 注5) C端子相互間およびC端子-接地端子間の共通モード電圧(DCおよびAC)が小さいほど、良好な測定精度を得られます。可能な限りC端子相互間接続を、さらに可能な限りその接地端子への接続を実施して頂くと最良の測定精度が得られます。
- 注6) 電流電圧変換用抵抗モジュール(形式:REM3-250)を入出力端子1A~12C上に取り付けることは可能です。しかし、熱電対測定も行う場合、発熱により冷接点補償誤差を増大させますので、抵抗モジュールは中継端子で使用することをおすすめします。
- 注7) 熱電対測定で内蔵温度センサによる冷接点補償を行う場合、RZUS-U9端子台の温度平衡が測定精度に大きく影響します。このため、放熱効果の大きな太い線材を端子台に接続しないことをおすすめします。端子カバーは必ず閉じてお使い下さい。冷却ファンの風が端子台部に直接当たらないようにして下さい。
- 注8) 測温抵抗体入力2線式測定では、端子B-C間を短絡して下さい。ただし、この場合はRZMSCFGを用いて線路校正を必ず行って下さい。